

在庫スイートクラウド改善コンサルティング
改善計画パック
業務改善計画レポート

作成日 : 20xx年xx月xx日

作成者 : 株式会社インフュージョン

対象企業名 : _____

1.改善計画レポートの目的

本レポートは、明らかになった課題をもとに、今後の改善実行に向けた 業務フローの再設計
・システム導入方針・データ連携仕様の整理を目的としています。

本資料は、改善施策を現場で実行するための“**行動計画書**”としての役割を担います。

2.改善方針の全体像

改善の基本方針

方針項目	内容
データの一元化	在庫スイートクラウドを中心にリアルタイムな在庫更新を実現
業務の標準化	入在庫・棚卸・補充の手順を明確化し、属人化を解消
システム連携	既存上位システム（販売管理・生産管理）とのデータ整合性を確保
運用定着	操作教育・運用ルールの文書化・定期レビューの実施

3. あるべき業務フローの提示①

現行フロー（As-Is）課題整理

- Excelベースの手入力管理
- 入出庫処理が担当者ごとに異なる
- 棚卸は年2回で差異が多く、工数負担が大

3. あるべき業務フローの提示②

改善後の業務フロー (To-Be) 在庫スイートクラウド導入後の標準フローを示します。

【入庫プロセス】

発注データ受領 → バーコード発行 → 入庫スキャン → 在庫自動反映

【出庫プロセス】

受注データ取込 → 在庫引当&ピッキングリスト発行 → 出庫スキャン → 出荷報告反映

【棚卸プロセス】

循環棚卸スケジュール設定 → モバイル端末で数量確認 → 差異自動反映

【在庫確認・分析】

在庫スイートクラウドでリアルタイム参照 → 上位システムへ日次連携

改善ポイント

- 現場入力をモバイル端末で即時反映
- 出荷・棚卸データのリアルタイム更新
- 上位システムとの自動連携による転記作業の削減

4.在庫スイートクラウド導入支援内容：マスター設計

区分	設計方針	備考
品目台帳	全倉庫で部品コードを統一 あるものはJAN/ITFも設定	上位システム連携を前提 部品コードのQRコードとJAN/ITFの混在利用
倉庫台帳	工場ごとに倉庫を設定	3工場を設定
ロケーション台帳	各倉庫別に建屋・棚番を階層構造で登録	作成ルール案：建屋-列-連-段 EXCELでCSV作成しインポート
仕入先台帳	上位システムと同じコード・名称・連絡先	上位システム連携を前提
出荷先台帳	使用しない	出荷指示データに出荷先情報をセット
ユーザー台帳	権限別にユーザー	所属倉庫／権限を区分

考察

- 上位システムと同一コード体系を採用し、整合性を担保。
- 連携コストを抑えるため、上位システムとの不要なマスターの同期を避ける。
- 現場での運用を考慮し、簡易登録・修正が可能な構造を設計。

4.在庫スイートクラウド導入支援内容：システム設定支援

タブ	設計方針	備考
自社情報	本社情報を登録	帳票の自社情報欄に印字
システム運用	<ul style="list-style-type: none">入荷後、検査前後のステータス管理アイテムの注意情報をスマホ表示出荷する在庫の判断は現場での柔軟な対応を維持	注意情報のメンテナンスは現場部門が実施 (PC画面/CSV一括メンテナンス)
項目名	<ul style="list-style-type: none">Keyコード、品目名1、品目名2の項目名を上位システムと統一出荷の元伝票番号は「製造番号」	可能な範囲で上位システムと項目名を一致
表示	PC/スマホでの画像表示をON	
入力	伝票コピー機能を有効	緊急時、現場部門が類似の出荷指示伝票をコピーし出荷指示伝票を生成を想定
帳票	出荷先の電話番号を含める	
モバイル	メニューから出荷返品を外す	使用項目だけを表示
モバイル（拡張）	JANやITFの利用可	部品コードのQRコードとJAN/ITFの混在利用

5.データ連携仕様整理（上位システムとの連携）

上位システム（例：販売管理・生産管理・会計システムなど）とのデータ整合を確保するため、連携対象データおよび方式を以下の通り整理します。

※在SC：在庫スイートクラウド

項目	データ連携対象	方向	タイミング	備考
品目台帳	部品コード、部品名、規格、単位、JAN	上位→在SC	1日1回（自動取込）	新規・更新対応 API連携
仕入先台帳	仕入先コード、仕入先名、住所、連絡先	上位→在SC	週次	マッピングでのCSVファイル取込
出荷指示	製造番号、部品コード、数量	上位→在SC	1日1回（自動取込）	API連携
棚卸結果	差異データ	在SC→上位	棚卸完了時	CSVファイル出力

考察

- 既存CSV連携・API仕様を確認し、運用負荷を最小化。
- 必要に応じて、一時ファイルを中間サーバー経由で連携。

6.今後の実行スケジュール（例）

フェーズ	内容	主担当	期間
初期設定 詳細設計支援	マスター設計・連携仕様整理	当社＋ユーザー	2週間
ユーザー側開発（任意）	中継アプリ/API/CSV連携マッピングの実装	ユーザー	任意（例：2～8週間）
テスト・移行準備	テストデータ作成／操作説明	当社＋ユーザー	2週間
本稼働（Go-Live）	新運用の開始	ユーザー	—
定着支援	日常運用フォロー・改善提案	当社	約4週間
運用レビュー	定着状況確認・レポート	当社	約4週間

7.次ステップのご提案

本改善計画により、在庫管理業務のリアルタイム化・精度向上が期待されます。次フェーズとして、「導入・定着支援パック」にて実運用立ち上げと定着化支援を実施します。

次ステップ：導入・定着支援パック（30万円～）

- 初期設定 詳細設計支援（システム設定／マスター／データ連携 設計レビュー）
- 教育支援（現地レクチャー、運用マニュアルレビュー）
- 棚卸立ち上げ支援
- 運用レビュー（定着状況確認・レポート）

お問い合わせ先

株式会社インフュージョン
コンサルティング担当
メール：trial@infusion.co.jp